

業 種	バス
取組分野	事故、ヒヤリ・ハット情報等の収集・活用
テ ー マ	ヒヤリ・ハット映像教材を各営業所で放映する取組み
取組の狙い	ヒヤリ・ハット情報の効果的な活用による乗務員の危険感受性向上
具体的内容	<p>京成バス株式会社では、ヒヤリ・ハット情報の効果的な活用により乗務員の危険感受性向上を図るため、映像教材を作成・展開する取組みを実施している。</p> <p>1. 映像教材の作成</p> <p>各営業所の乗務員からの申告により集約されたヒヤリ・ハット情報から、運輸安全推進室にて教材候補を選定。教材として採用したヒヤリ・ハット情報は、各月単位で取りまとめ、同室にて映像教材を作成し、毎月の安全統括委員会で内容が報告される。</p> <p>2. 映像教材の展開方法</p> <p>映像教材は、各営業所の集合教育・小集団活動等の教材として活用するほか、点呼執行場所や休憩室に大型モニター（ヒヤリ・ハットモニター）を設置し、常時放映することで各乗務員への周知を図っている。</p> <p>3. 映像教材の特徴</p> <p>映像教材には、ドライブレコーダーで取得されたヒヤリ・ハット発生時の映像だけではなく、日時、場所、状況、ヒヤリ・ハット内容等の基本情報説明および発生した要因と防止策などの解説がセットとなっている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">営業所での設置状況</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ヒヤリ・ハットモニターの映像イメージ</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>
取組の効果	<p>①ヒヤリ・ハットの収集件数が年々増加した（312件⇒408件⇒485件）。</p> <p>②映像によるヒヤリ・ハット情報に日々触れることにより、危険感受性向上に繋がっている。</p> <p>③「ヒヤリ・ハットは本人のミス」という誤った意識が徐々に払拭できている。</p> <p>④増加する大型未経験乗務員への効果的な危険個所の周知・技の伝承に役立っている。</p>
事業者名	<p>京成バス株式会社</p> <p>（連絡先：運輸安全推進室 047-712-7415）</p>